

(国語・体育・集団づくり)

「知・徳・体のバランスのとれた児童の育成」
—問い・対話・振り返りを重視した授業改善—

大阪市立堀川小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校には、国語研究の歴史があり、言葉の力育成に重点をおき教育活動を推進してきた。令和3・4年度には体育科を研究教科とした。ここでも、互いに言葉をかけ合い、体で表現するという「動きを言語化し体言化する」を研究テーマに、言葉の力に加え、児童相互の関わりを大切にしてきた。対話を促す言葉をことば集としてまとめ、児童が意識できるようにした。

令和5・6年度は、体育の研究を継続し、国語、集団づくりの3つの柱を掲げ、「知・徳・体のバランスのとれた児童の育成」を研究テーマと設定した。児童には、学力や体力をつけたいことはもちろんであるが、仲間と関わること、自分ごととして学習すること、楽しい学校や過ごしやすい学校であることを大切にしたいと考えているため、知徳体のそれぞれを実践する教育活動を推進した。それぞれの研究の重点は以下の通りである。

【知】国語 パフォーマンス課題を活用した学び

【徳】集団づくり 持ち味を生かした学級

【体】体育 教えること・気づかせることを基盤に

2. 研究の趣旨

今まで、全員で同じ課題で学び、ノートを書き、挙手発言をして授業展開をしてきた。しかし、主体性や学力の育成には課題があった。児童アンケートの「学習は先生が教えてくれるまで待つ」の肯定的割合は半数程度であり、与えられる学習に慣れていることが考察された。そこで、自分ごととして学習するためにも、興味関心に応じた学びたいことを学ぶために「問い」、仲間と関わるために対話を重視することで、学びたいことを学ぶことができ、楽しいや過ごしやすい学校につながっていくと考えた。

取り組むにあたり、全職員で言葉を整理し、「話し合いのループリック」「振り返りの観点」を児童に示し、学期ごとに自己評価してきた。また、各教材でどのような問いが出てくるかをあらかじめ整理することで児童から出た問いに対応でき、授業でいかせるように準備した。以上のように、私たちの授業改善が、児童の学ぶ姿勢に影響する取り組みを推進してきた。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点①【知】国語 パフォーマンス課題を活用した学び

○教材分析研修

・夏休みに全学年で2学期以降の教材分析を講師のもとで実施

○指導の系統

・既習の学習を指導者と児童が意識

○身につける力

・身につける力を明らかにしたシンプルな授業

○効果的な問いと振り返り

- ・単元への位置付け
- ・学びをメタ認知できる工夫

視点②【徳】集団づくり 持ち味を生かした学級

○道徳教育

- ・特別の教科である道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う

○人権教育・ピアサポート

- ・学年の実態に合わせて取り組みを重ねる

○研修会

- ・講師を招聘し、実技研修会や講演会の実施

視点③【体】体育 教えること・気づかせることを基盤に

○「人」授業

- ・一昨年度までの研究を継続
- ・「人」授業で体育にも取り組む

○系統と本質

- ・指導の系統を整理
- ・本質を見極め、教えることと気づかせることを整理

○研修会

- ・講師を招聘し、実技研修会や講演会の実施

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ・自分の思いや考えを伝えられるようになった。
- ・ルーブリックなどの手立てが言葉の使い方の意識づけに効果的であった。
- ・自ら学ぶ姿勢が身についてきた。
- ・評価を意識したパフォーマンス課題は児童にとっても指導者にとっても有効であった。
- ・仲間意識が強くなってきた。
- ・励ます声かけができるようになった。

(2) 今後の課題

- ・話し合いが苦手な子も参加できる授業づくり
- ・書く力の育成
- ・自分たちで学習を推進する力の育成